

「新年の所感」

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会
会長 濵澤 茂

新年あけましておめでとうございます。

昨年は包括的支援体制づくりを学ぶために、10月28日に開催した「中核地域生活支援センター大会」では、「その人らしく地域で生きる～地域生活支援へのつながりとひろがり～」をテーマに開催しました。基調講演で日本福祉大学平野隆之先生から、中核センターが行っている地域づくりと相談支援について考察をいただいた後、県内で活動する3つの団体から実践報告があり、現状を共有して今後の活動に示唆をもらいました。

11月28日には県内で重層的支援体制整備事業に取り組む自治体の、情報交換や意見交換を行うための研修会を開催しました。自治体、委託事業者、中核センター職員から60名ほどの参加をいただき、活発な意見交換を行いました。重層事業を行っている自治体等の横の連携はこれまで殆ど無かったこともあり、参加いただいた方から好評をいただいています。また、国が用意した重層事業を使わないで包括的支援体制をつくる道筋について議論しました。

今年度も再犯防止の取り組みとして、刑務所等から出所する方への出口支援を17件行っています。令和2年のモデル事業から始めた出口支援の取り組みは6年目になり、支援のスキルは確立しつつあります。他方で、これまで取り組みが弱かった、刑が執行される前に釈放される、入口の支援について、再犯防止支援計画の見直し会議の中などで議論され始めています。次年度に向けて仕組みを作っていきます。

施行されて2年目になる、女性支援法に関して、千葉県にある2つの女性支援施設を見学するなどして、理解を深めました。女性サポートセンターとも意見交換会を開催する等して相互の役割を確認しています。

今年も私たち中核センターは、社会の隙間に落ちている課題を持ったお一人お一人の方とお付き合いさせていただくことを大事にしながら、社会課題を発信していきます。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

〈発行元〉

千葉県中核地域生活支援センター
連絡協議会

〈事務局〉まるっと（習志野圏域）

習志野市実糀3-4-25

☎ 047-409-6161

〈編集〉海匝ネットワーク（海匝圏域）

旭市口838

☎ 0479-60-2578

大原高校

〈夷隅圏域〉

『原高カフェ』

千葉県立大原高等学校にて2023年から始まりました。大原高校の特徴は総合学科があり2年次より系列科目を選択していく特徴ある学校です。普通系列の他に生活福祉系列、園芸系列、海洋科学系列があります。将来の職業に結び付く授業が多いためか、どの生徒も挨拶がしっかりできます。とても気持ち良いです。

『原高カフェ』は生徒の名前募集アンケートによって決まりました。高校の名前が入っており学校に対する生徒の愛情があふれています。

夏休みを除いた毎月1回大講義室で行っています。夏はかき氷、秋は秋祭り、冬はクリスマス会と季節に合った取り組みをしています。昨年から新入生に先生方が『原高カフェ』を紹介して下さっており、4月は1年生ほぼ全員が参加してくれました。つかみはOKというところでしょうか、そうなるとその後は自主的に参加しやすくなつて、1年間通して3分の2以上の生徒が楽しんでくれるようになりました。活動を1年、2年と積み重ねていくうちに生徒の居場所として定着していると感じることが多くなりました。

12月はクリスマス会をしました。「来年もケーキお願いね」という昨年の生徒からのリクエストに応え、今年もクリスマスケーキとチキンを用意しました。生徒は大喜びでした。楽しんでもらうことはとても大事にしています。何よりも生徒の笑顔が見られることは大切なことです。bingo大会は先生方に進行していただいて‘先生サンタクロース’に大変盛り上がりいました。



また、毎回ボランティアとしてPTA、障害福祉サービス事業所、高齢者施設、お寺、スクールソーシャルワーカー、保健所相談員、市町村職員、県職員、大学教員、大学生、個人の方などがあ手伝いして下さっています。今年から卒業生もきてくれるようになりました。地元の養護施設の厨房スタッフが毎回調理で協力をしてくれています。多くのボランティアさんに支えられています。これからも、たくさんの方に支えられながら居心地の良い空間、居場所作りを目指して行っていこうと思います。

お腹いっぱい食べて、楽しいことをたくさんして笑顔の貯金をしていこう。困ったときはいつでも夷隅ひなたに相談しよう。そして一緒に考えていこう。夷隅ひなたはいつでも手を広げて待っています。

「結果としての再犯防止」

特定非営利活動法人ディープデモクラシー・センター
副代表理事 加納 基成

ディープデモクラシー・センターという小さなNPOでの活動が昨年で10年目となった。もともとは、市民活動への中間支援や、アート、対話、まちづくりなどを活動の中心として始まったのだけれど、気がつくと、ホームレス状態の方や、困窮状態の方、DV、ひきこもり、犯罪、災害など、様々な理由で居場所を失った方などへの直接支援の現場を、駆けずり回る毎日になっていた。とくにこの数年は、何らかの理由で法に触れてしまった方々、いわゆる「入口」「出口」の支援が、支援全体の半分近くを占めているかもしれない。もちろん、そういう支援を始めようと思って始めたわけではなく、関係機関からの相談を受け、今の状態に至っているのだけれど、わたしたちの活動について、よく、再犯防止の活動と言われるが、自分たちでは、あまりそうは思っていなかったりする。あくまでも、その方の失われた関係性を再構築するお手伝いをしているだけで、理由は様々だけれど、

同じように生きづらさを抱え、失敗を経験した仲間たちとの
コミュニティの中で、自らの力と意志で、地域での生活や
関係性を再獲得したその結果、再犯に至らなかった。
そういうケースが多いというのが実態だと思う。



～必見！インフォメーション～

第17回千葉県障害者グループホーム大会(20周年記念)



これからのグループホームを考える

～10年後の障害者グループホームの理想とは～

■日時 2026年1月23日(金)12:30～16:30

■会場 千葉県社会福祉センター(千葉市中央区千葉港4-5)

※駐車場のご用意はございません。公共交通機関でお越しください。

■定員 先着250名

■プログラム

<シンポジウム>『この20年を振り返って

～グループホームと障害者グループホーム等支援ワーカーのあゆみ～』

<基調講演>『これからのグループホームを考える～10年後の障害者グループホームの理想とは～』

　　障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会 代表 荒井隆一 氏

<分科会>『様々な障害のある方の受入・GH開設を考える』 ①医療的ケアで支える笑顔の暮らし

　　②グループホームで強度行動障害の方を受け入れてみた ③入居者の高齢化にどう向き合うか

■申込方法 URL(<https://forms.gle/zQjf6YHe8xbUDQBM7>)

　　又は上記 QR コードよりお申込みください。

■主催 千葉県／千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会

■お問い合わせ いちはら福祉ネット(大会事務局) TEL 0436-23-5300



～センター紹介～

さんネット〈山武圏域〉 山武市津辺252-1 TEL 0475-77-7531

さんネット(山武圏域)は、3市3町(東金市・山武市・大網白里市・九十九里町・横芝光町・芝山町)人口19.3万人の圏域を担当しています。九十九里浜を擁する水産業、平野の農業、成田空港関連企業も広く展開しています。山武郡市の風土としては、郡市全体で社会資源を共同活用したり、地域課題を協議・検討する機会も多くあります。

当センターは成東駅から徒歩約5分の建物で活動しています。

法人が運営する「フードバンクさんぶ」「週1回のフリースペース(心のいすみ)活動」「毎月第3土開催の縁日ほのん(ちいき食堂)」「年間3~4回の子育てミニ集会」など、相談者が少しでも足が向かうくなるように、また、地域の方々にとって活用しやすい社会資源となれるように努めています。



また、山武地域発のイイ(居)場所・ネットワークづくり「ホットステーション」事業の事務局として、それぞれの地域の方々が、それぞれの地域で居場所と思うところ、活用している場所をみんなでシェアできるようにしています。

地域の中で福祉を伝え、「地域をみんなで創る」ことを今後も心掛けて活動していくので、これからも宜しくお願ひ致します。

～センター紹介～

海匝ネットワーク〈海匝圏域〉 旭市口 838 TEL 0479-60-2578

海匝ネットワークは銚子市、旭市、匝瑳市の3市(総人口約15万人)を対象に活動を行っています。当事業所は2003年12月から中核地域生活支援センターモデル事業より事業受託しています。地域共生社会を実現することを目的に、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民等が主体的に生活していくように、地域づくりに長年取り組んでいます。また、個別ケースで積み上げた地域課題を関係者だけでなく地域住民にも関心を持ってもらえるように伝え、あらゆる側面から地域全体に働きかけていくことを大切にしています。



J R 旭駅から徒歩 7 分。壁面の大きな魚の絵が目印です。

当事業所にはコミュニケーションセンター「Mado-ka」(まどか)が併設されています。まちの無料休憩所・フリースペース・地域住民の交流の場として活用されています。

近年話題となっている若者支援については、2021年から Teens 応援プロジェクトを開始、自分からは支援に繋がりにくい若者たちに「社会に頼れること、支援を受けられること」を伝えていきたいと思っています。

また、地域共生社会の実現に向けて、子供から高齢者まで参加できる「みんなで遊ぼうイベント」を年4回開催しています。どなたでも参加が可能なのでお待ちしています。

